

| | | |
|-------|---|--|
| コキンバイ | <i>Geum ternatum</i> (Stephan) Smedmark | 準絶滅危惧 |
| | | バラ科 |
| 選定理由 | 県内では産地がある程度限られるやや稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起これば、県内個体の絶滅につながるため。 | 写真(岐阜県博物館) 標本 |
| 形態の特徴 | 細い地下茎のある多年生草本。根生葉は葉柄があり、三出、葉身は紙質。頂小葉は菱状倒卵形、しばしば3浅-深裂、側小葉は往々2-3裂し、共に鋭頭-鈍頭、下部を除き不規則な鋸歯縁。花茎は葉とほぼ同長、1-3花を着ける。花は5-6月、径2cm前後。副萼片5、線状披針形。萼片5、長楕円形-卵形。花弁5、開出し、輝く黄色、楕円形-菱状楕円形。雄蕊70-90、雌蕊通常5。瘦果に白毛がある。 |  |
| 生態的特徴 | ブナ帯落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。 | |
| 分布状況 | 北海道、本州(近畿地方以北)に生える。県内のブナ帯山地にやや稀。 |  |
| 減少要因 | 山林管理の停滞に起因する林縁の樹林化、林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの生育不良。 | |
| 保全対策 | 山林管理の促進による林縁の低~中茎草地の維持、林床の日照確保。 | |
| 特記事項 | 普通はブナ帯上部(標高約1,000~1,500m)にやや稀に生育する。冷たい風の吹き出る風穴周辺では低標高(標高約500m)にも分布する。コキンバイ属を認めずダイコンソウ属に含める場合には <i>Geum ternatum</i> (Steph.) Smedmark とされる。 | |
| 参考文献 | Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 36. <i>Waldsteinia</i> Willd. H. Ikeda | |

文責:高野裕行